

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-300

(43) 公開日 平成 6 年 (1994) 1 月 11 日

(51) Int.Cl.⁵

D 0 6 F 81/08

71/18

識別記号

Z

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平4-161112

(22) 出願日 平成 4 年 (1992) 6 月 19 日

(71) 出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満 2 丁目 4 番 4 号

(72) 発明者 久木 恭子

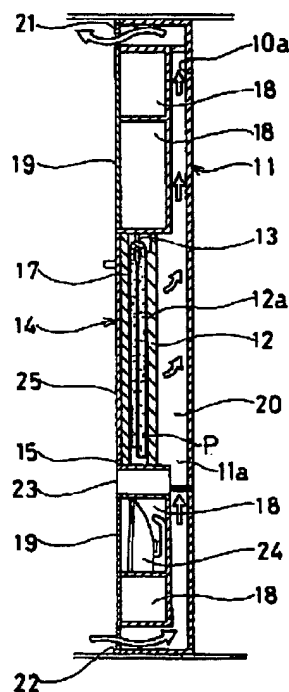
埼玉県志木市本町 3-10-24

(54) 【発明の名称】 衣類プレス機能付きアイロンユニット

(57) 【要約】

【目的】 衣類をプレスする機能やアイロン台としての機能を合わせ持ち、使い勝手および収納性が良好な衣類プレス機能付きアイロンユニットを提供する。

【構成】 凹部 11 a 内にプレスパネル 12 が上下方向に沿って配設され、該プレスパネル 12 の上部側にパンツ P を吊り下げる昇降ハンガー 13 が配設され、該凹部 11 a を開閉する蓋体 14 が略水平方向に沿うヒンジ 15 を中心に回動自在に設けられ、該蓋体 14 には、該蓋体 14 を上下方向に沿わせて閉成した状態で、前記昇降ハンガー 13 に掛けられたパンツ P を前記プレスパネル 12 とで挟んで該パンツ P をプレスし、前記蓋体 14 を略水平方向に沿わせた状態で、アイロン掛けを可能とするプレス部としてのシート 17 を設けた。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 凹部内にプレスパネルが上下方向に沿って配設され、該プレスパネルの上部側に衣類を吊り下げるハンガーが配設され、該凹部を開閉する蓋体が略水平方向に沿う軸を中心に回動自在に設けられ、該蓋体には、該蓋体を上下方向に沿わせて閉成した状態で、前記ハンガーに掛けられた衣類を前記プレスパネルとで挟んで該衣類をプレスし、前記蓋体を略水平方向に沿わせた状態で、アイロン掛けを可能とするプレス部を設けたことを特徴とする衣類プレス機能付きアイロンユニット。

【請求項2】 前記プレスパネルの近傍を通り、上下方向に沿う通風路が形成され、該通風路の上部と下部に換気口が設けられたことを特徴とする請求項1記載の衣類プレス機能付きアイロンユニット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、衣類をプレスする機能およびアイロン台として機能を合わせ持つアイロンユニットに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来から、衣服の皺を延ばすのに、パンツプレスを使用したり、又、アイロン掛けをしたりしている。

【0003】 そのパンツプレスは、パンツを2枚の板で、熱を掛けながら、所定の圧力で挟むことにより、パンツの皺を延ばすようにしている。

【0004】 また、アイロン掛けは、アイロン台の上にパンツ等の衣服を乗せてアイロンを当てて皺を延ばすようにしており、このようなアイロン台は、ある程度の大きさを必要とするため、室内に放置しておくことができず、押し入れ等に収納するようにしているが、ここからの出入れ等は面倒なものであった。

【0005】 このため、アイロン台をキャビネットに対してスライドさせて、簡単に出入れできるようにしたものがある。

【0006】 なお、従来から種々の電気器具を収納できる壁として、例えば特開昭55-122943号公報に記載されたようなものがあり、又、ある程度の大きさを有する天板を回動させて収納できる収納機として、例えば実公昭60-22829号公報に記載されたようなものがある。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、このような従来のものにあっては、パンツプレスやアイロン台はあくまで別個の物で、これらの機能を合わせ持つような物はなく、パンツプレスの収納が大変であると共に、収納箇所からパンツプレス等を取り出して使用し再度収納する作業は面倒なものであった。

【0008】 そこで、この発明は、衣類をプレスする機能やアイロン台としての機能を合わせ持ち、使い勝手お

2

および収納性が良好なアイロンユニットを提供することを課題としている。

【0009】

【課題を解決するための手段】 この発明は、かかる課題に着目してなされたもので、凹部内にプレスパネルが上下方向に沿って配設され、該プレスパネルの上部側に衣類を吊り下げるハンガーが配設され、該凹部を開閉する蓋体が略水平方向に沿う軸を中心に回動自在に設けられ、該蓋体には、該蓋体を上下方向に沿わせて閉成した状態で、前記ハンガーに掛けられた衣類を前記プレスパネルとで挟んで該衣類をプレスし、前記蓋体を略水平方向に沿わせた状態で、アイロン掛けを可能とするプレス部を設けた衣類プレス機能付きアイロンユニットとしたことを特徴としている。

【0010】 また、前記プレスパネルの近傍を通り、上下方向に沿う通風路を形成し、該通風路の上部と下部に換気口を設けることもできる。

【0011】

【作 用】 かかる手段によれば、衣類としてのパンツをプレスする場合には、ハンガーにパンツを掛けた状態で、蓋体を閉成する。すると、この蓋体のプレス部とプレスパネルとの間で、パンツがプレスされることにより、皺が延ばされる。

【0012】 また、アイロン掛けを行う場合には、蓋体を閉成して略水平状態とすることにより、この蓋体の上面部に設けられたプレス部を利用して、アイロンを掛けるようにする。

【0013】 このように、蓋体を回動させるだけで、パンツプレスおよびアイロン台として利用できるため、作業性が良好であると共に、蓋体を立てるようにして収納できるので大きな収納スペースも必要とせず、収納性が良好である。

【0014】 さらに、通風路等を設ければ、プレスパネルや蓋体等で発生する熱を、その通路や換気口を介して排出でき、凹部内の温度上昇を抑制できる。

【0015】

【実施例】 以下、この発明の実施例を図面に基づいて説明する。

【0016】 図1乃至図4は、この発明の一実施例を示すものである。

【0017】 まず構成を説明すると、図中符号11は、上下方向に長い直方体形状のキャビネットで、建築物の壁10に形成された凹所10aに嵌め込まれている。このキャビネット11には、図1に示すように、凹部11aの上下方向略中央部に上下方向に沿うプレスパネル12が配設され、このプレスパネル12の前側の上部側には衣類としてのパンツPを掛ける昇降ハンガー13が配設されていると共に、プレスパネル12と略同じ大きさの蓋体14が回動自在に配設されている。

【0018】 詳しくは、プレスパネル12は、表面部1

3

2aに熱に強いシートが設けられると共に、所定の温度とする図示省略の発熱体が設けられている。

【0019】この蓋体14は、下端縁部が略水平方向に沿うヒンジ15により回動自在に取り付けられ、上方に回動させてプレスパネル12と合わせた状態で閉成される一方、開成されて略水平方向に沿わされた状態で、ストッパ16にてこの状態が維持できるようになっている。また、この蓋体14には、略水平方向に沿う状態において上面部にアイロン台に設けられているような熱に強いシート17が敷設されると共に、図示省略の発熱体により、このシート17側が所定の温度とされるようになっている。このシート17等で、この発明の一構成要素であるプレス部が形成されている。さらに、この蓋体14の下面部側（閉成状態で表面に表れる側）には、室内のインテリアとコーディネートした適当な材質のパネル25が配設されている。

【0020】この蓋体14を上下方向に沿わせて閉成した状態で、前記昇降ハンガー13に掛けられたパンツPを前記プレスパネル12とで挟んでプレスし、又、前記蓋体14を略水平方向に沿わせた状態で、該蓋体14のシート17上でアイロン掛けが可能とされている。

【0021】また、前記昇降ハンガー13は、図示省略の機構により上下動され、所定の高さで停止されるようになっている。

【0022】さらに、キャビネット11には、そのプレスパネル12等の上側及び下側に、複数の収納凹部18…が設けられ、これら収納凹部18を開閉する蓋体19が設けられている。

【0023】さらにまた、そのプレスパネル12や収納凹部18等の裏側には、通風路20が設けられ、キャビネット11の上部と下部に換気口21、22が設けられることにより、下側の換気口22から入った空気が通風路20を通り、上側の換気口21から抜けるようになっている。

【0024】符号23は操作パネルであり、この操作パネル23には、図示していないが、プレスパネル12と蓋体14との発熱体をオン・オフさせるスイッチ、オンさせる時間を設定するタイマー、この温度を調整する温度調節摘み、コードレスのアイロン24を充電等するためのコンセント等が設けられている。この操作パネル23は、キャビネット11の背面側から延長された電源と接続されている。

【0025】なお、図中符号24は、収納凹部18に収納されたコードレスのアイロンである。

【0026】次に、かかる構成のアイロンユニットの作用について説明する。

【0027】まず、パンツプレスとして使用する場合には、まず、昇降ハンガー13にパンツPを掛ける。この際には、昇降ハンガー13を適当な高さまで降ろすことにより、パンツPを掛け易くなる。そして、蓋体14を

4

閉成し、操作パネル23上のスイッチ等を操作して、プレスパネル12及び蓋体14の発熱体を所定温度に、所定時間発熱させて、蓋体14とプレスパネル12との間で、パンツPをプレスして皺を延ばす。

【0028】一方、アイロン24掛けを行う場合には、図3に示すように、蓋体14を開成してストッパ16により略水平状態とする。そして、収納凹部18に収納されていたコードレスのアイロン23を取り出して、この蓋体14の上面部を利用して、アイロン24を掛けるようにする。

【0029】また、プレスパネル12や蓋体14が設けられた部分では熱が発生するが、下側の換気口22、通風路20及び上側の換気口21を通る空気の流れ（図1中矢印参照）ができるため、その熱が上側の換気口21を介して排出され、キャビネット11内の温度上昇が抑制される。この際、空気の流れを電動送風機を用いて強制的に作り出すことにより、より温度上昇を抑制できる。

【0030】このように蓋体14を回動させるだけで、蓋体14等をパンツプレスおよびアイロン台として利用できるため、作業性が良好であると共に、蓋体14を立てるようにして収納できるので大きな収納スペースも必要とせず、収納性が良好である。

【0031】また、この蓋体14には、室内のインテリアとコーディネートしたパネル25を使用することにより、外観品質を向上させることができる。

【0032】さらに、複数の収納凹部18を設けることにより、この中にアイロン24やアイロン掛けに使用するその他の物を収納できるため、整理整頓を良好に行うことができる。

【0033】なお、この発明の実施例を図面に基づいて説明してきたが、具体的な構成は、この実施例に限られるものではなく、この発明の要旨を逸脱しない範囲の設計変更等があっても、この発明に含まれる。例えば、上記実施例のように壁10にキャビネット11を埋込み式にしなくても、図4に示すように、壁10に沿わせて突出した状態に配設するようにすることもできる。この場合には、電源は壁10に設けられたコンセント26から取るようにする。また、上記実施例では、キャビネット11を用いているが、壁10の凹部を形成し、この凹部に直接プレスパネルや蓋体を設けても良いことは勿論である。

【0034】

【発明の効果】以上説明してきたように、この発明によれば、蓋体を回動させるだけで、パンツプレスおよびアイロン台として利用できるため、作業性が良好であると共に、蓋体を立てるようにして収納できるので大きな収納スペースも必要とせず、収納性が良好である。

【0035】また、通風路等を設ければ、プレスパネルや蓋体等で発生する熱を、その通路や換気口を介して排

5

6

出で、凹部内の温度上昇を抑制できる、という実用上有益な効果を発揮する。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明のアイロンユニットの一実施例を示す断面図である。

【図2】同一実施例のアイロンユニットの正面図である。

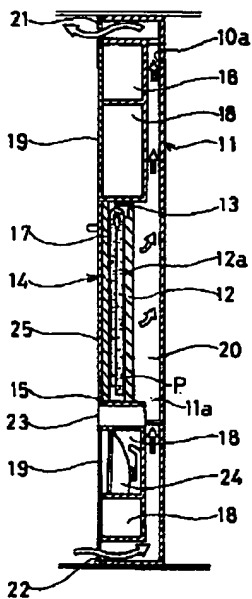
【図3】同一実施例のアイロンユニットの使用状態を示す斜視図である。

【図4】他の実施例を示す斜視図である。

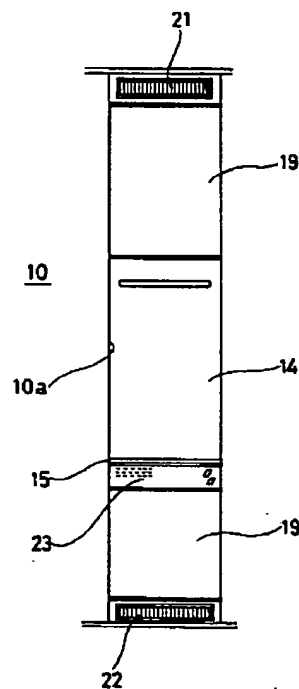
【符号の説明】

- 11a 凹部
- 12 プレスパネル
- 13 昇降ハンガー（ハンガー）
- 14 蓋体
- 17 シート（プレス部）
- 20 通路
- 21 換気口
- 22 換気口
- 10 P パンツ

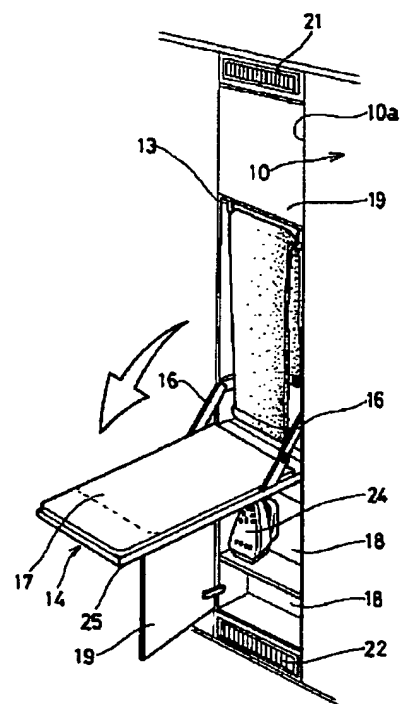
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

